

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

令和2年1月30日公表

チェック項目			はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<div></div>		職員が全体を見て把握し、相互協力できるような環境づくりを行っています。	個別・集団活動と同じ一つの部屋で行っていますが、いずれも法令を順守したスペースを確保しています。
	2	職員の配置数は適切である	<div></div>		法令の基準を満たし、保育士・児童指導員等、専門的な有資格者を配置しています。	今後も職員配置基準に則り、それ以上の充分、かつ専門的な配置を行って参ります。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	<div></div>		事業所の床はフラットで、バリアフリーになっています。 また特性に応じ、利用児童にも視覚的に分かりやすく、活動しやすい環境に配慮しています。	現時点では、車椅子を利用する児童の受け入れはありますが、今後、必要に応じて廊下やトイレ等に手すりの設置など、バリアフリー化を検討して参ります。
	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<div></div>		リフレクション会議等の開催を行いPCDAサイクルに全職員で参画しています。	定期的に会議を行い、職員各々の良いところを評価し、業務が滞っている部分には意見を出し合い、適宜改善策を検討して参ります。
業務改善	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<div></div>		「ご意見箱」を設置し、広く保護者様のご意見を求めて、改善に繋げ、また年1回アンケート調査を実施し評価を基に業務改善に努めています。	アンケート調査の結果と検討したこと、業務改善の方策は、事業所の玄関にも開示し、保護者様にもお伝えする様にしております。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<div></div>		自己評価結果は、公式 Web サイトで公開しております。	今後も Web サイトにて公開を行って参ります。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<div></div>	現時点では第三者評価は実施できておりません。	第三者による外部評価については、今後課題として検討して参ります。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<div></div>		社内外の研修や、自主研修等にも積極的に参加しています。	今後も定期的に研修を行い、外部の研修にも参加し、参加者が情報や知識の共有を図り、研鑽に努めて参ります。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	<div></div>		児童発達支援管理責任者、担当職員も同席し適切に、客観的にアセスメントを行い、計画を作成しています。	今後も定期的にモニタリングを行い、保護者様のご意向を踏まえた放課後等デイサービス計画書を作成していきます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<div></div>		標準化されたアセスメントツールを活用し、児童の特性を加味して聞き取りを行い、適応行動等の状況を把握して客観的な判断を行なっております。	今後も継続して正確にアセスメントできるよう努めて参ります。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	<div></div>		活動プログラムの立案は常に職員間で話し合い、他児との関係・人数や環境等を考慮した上でチームで行い、個別のスケジュールは、担当職員が都度組み立て、且つ共有しています。	今後も活動プログラムは随時チームで立案・計画していきます。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<div></div>		利用児童の課題に取り組む中で職員それぞれの工夫や関わり方で固定化しない様工夫しています。 通常は習慣化と定着を目指し、繰り返し行う療育内容が基本です。 この点は固定化が必要だとお考えしていますが、同時に児童の発達や成長に適した個別の課題を与え、結果、固定化しない活動内容となっています。	今後は、児童の希望も取り入れ、平日の連続した活動、長期休みには季節ごとの行事や制作等も取り入れ変化を持たせて参ります。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	<div></div>		課題や他児との関係・人数や環境等を考慮し、平日と長期休暇に応じた個別のスケジュールを組み立てています。 平日は時間が限られており、座学中心の個別支援ですが、長期休暇や休日には活動にメリハリを持たせ、楽しんで集团での他児との関わりを学べる活動を積極的に取り入れたりと、きめ細やかな課題を設定しています。	今後もきめ細かく設定していきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	<div></div>		個別の活動を中心に進めながら、集団での活動を意識した活動内容も取り入れています。	児童の状況と個別支援計画の目標を考慮し、今後も個別活動と集団活動を組み合わせて計画を立案して参ります。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<div></div>		朝礼にて担当表を確認し、その日の支援内容やそれぞれの児童の課題について話し合っています。	今後も毎朝当日の流れ・支援内容や役割分担についての情報共有の上、支援に取り組んでいきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<div></div>		物理的な時間の制約があるため、その日のうちに意見交換まではできないこともあります。互いに気付いた点は職員間の共通連絡ノートを用い、職員全体に発信・把握し、共通認識に努めています。	今後も気づき等の報告・連絡・相談を徹底し、情報共有を図って参ります。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<div></div>		個別支援経過の記録を徹底し、支援の検証・改善に役立て、見直しを行っていく中で職員のスキルの向上にも寄与する様日々研鑽に努めています。	今後も個別支援経過記録の記載を徹底していきます。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	<div></div>		定期的に必ずモニタリングを行い、保護者様や関係機関との面談等にて児童の状況や課題などを話し合い、保護者様のご意向・確認を踏まえて、放課後等デイサービス計画書の作成や見直しを行っています。	今後も定期的に児童の現状把握を行い、保護者様のご意向も確認しながら計画の見直しを判断していきます。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	<div></div>		ガイドラインを職員全体にて読み合わせ、共通理解を図り、ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせながら、支援を行っています。	今後もガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせながら、個々の児童に寄り添ったより良い支援ができるよう努めています。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<div></div>		担当者会議には児童の状況を一番把握している児童発達支援管理責任者、管理者、その児童に多く関わりを持つ指導員・保育士等が参画しています。	今後も継続して参ります。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	<div></div>		学校の担任や対応される先生方との面談や連絡を積極的に行い、学校の行事予定表や連絡調整等を保護者様や担任教諭に協力、情報提供を依頼し、適切に対応しています。	今後も継続して学校やご家庭と密に連絡を取り合い、頂いた情報についてはすぐに全職員で共有し、共通認識ができる様努めて参ります。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		<div></div>	現在医療的ケアが必要な児童の受け入れはありません。	今後、対象となる児童の利用が開始となる場合には、関係機関と綿密な打ち合わせと調整の上、受け入れに向けて態勢を検討して参ります。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	<div></div>		卒園前に移行シート等の文書作成、日頃の様子や支援等の見学を相互間で言い、積極的に支援内容の情報共有を行い、課題や支援内容等の相互理解に努めています。	今後も繋がりを切らず連絡を取り合い、情報や助言を頂きながら、児童の課題に向き合いを心掛けていきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	<div></div>		保護者様や支援相談員等を通して、関係機関等へこれまでの支援内容・活動状況等の情報を提供しています。	今後も移行先へ課題や支援内容等の状況を伝達・情報提供していきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	<div></div>		センター主催の会合や講義にも積極的に参加し、助言や研修を受けています。	引き続き専門機関による公開講座に参加する等、助言を受ける機会を積極的に活用し、事業所では全職員に周知し共通理解と能力向上に繋げて参ります。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		<div></div>	発表会や施設の見学等に参加する程度で、事業所の企画機会はありませんでした。	保護者様のご意向をうかがいながら、近隣の学童保育等との交流機会への検討を行って参ります。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	<div></div>		熊本市や区ごとに行われている協議会に積極的に参加しています。	引き続き研修や講義等には積極的に参加し、事業所において全職員に持ち帰った情報を周知し、共通理解と能力向上に繋げて参ります。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	<div></div>		送迎の際や連絡帳で、基本的には日々の活動内容・様子等を連絡帳を通して保護者様にお伝えし、保護者様からもご家庭での様子をお知らせ頂き、共通理解を図っております。	今後も引き続き保護者様と情報共有の充実を図り共通理解に努めます。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	<div></div>		連絡帳等を通してご質問等にも助言・支援を行い、ご要望や必要に応じ面談を行う等、保護者様に寄り添う支援を心がけております。	今後もお役に立てるよう保護者様のお話をよく傾聴し信頼関係を深めて参ります。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	<div></div>		契約の際、又は保護者様の求めにより随時、児発管が、わかりやすく丁寧にご説明を行い、変更等があった際には都度通知・説明を行っています。	これから分かりやすく丁寧な説明を心掛けて参ります。
	31	保護者からの子育ての悩み等に助する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<div></div>		子育てや児童の発達に関するご質問やご相談を受けた場合には、連絡帳・お電話に留まらずご家庭へ訪問して丁寧な対応を行い、内容によっては、専門機関へ相談しながら保護者様に寄り添う対応を心がけております。	今後もお役に立てるよう保護者様の話をよく傾聴し信頼関係を深めて参ります。
	32	父母等の会活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	<div></div>		前回は平成31年2月に保護者会を開催し、保護者様同士が連携を図れる機会を設けました。	今後も定期的に計画し、保護者様同士・職員間の情報交換・連携・親睦を図って参ります。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	<div></div>		ご意見箱を設置し、広く保護者様のご意見を求め、又対応には苦情窓口を設置し、迅速な対応の整備に努めております。 対応に関しては、重要事項説明書に記載し、契約の際にも詳細にご説明しています。	ご意見に対しては今後も迅速な対応で問題解決を図って参ります。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	<div></div>		公式 Web サイトのブログ事業所の様子をお伝えしている他 SNS で情報発信し、学期ごとの節目で季刊誌を発行しています。	今後も継続して情報の発信を行い、避難訓練やイベント等の行事予定等は、連絡帳等を通し、事前に情報発信に努めます。
	35	個人情報に十分注意している	<div></div>		個人情報を利用した後、一時的に利用するプリントに関してはシュレッダーの利用等、廃棄の際も気を付けています。 また、個人情報ファイル等は鍵付きの書庫にて保管しており、鍵は厳重に管理しています。	個人情報は今後も細心の注意を払い取り扱いや保管を行って参ります。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		<div></div>	まずは連絡帳を活用し、次回の日程や時間、送迎時の注意など細かく記載するように配慮しています。 会話においてもできるだけ専門用語を避け、わかりやすく伝わりやすい表現を心がけています。 児童や保護者様に合わせ、言葉だけでなく、ジェスチャーや手話、メモ等を用いて分かりやすく情報を伝えるよう配慮しています。	今後も、個々の特性に配慮しながら、正しく情報伝達できる様、また意思疎通に配慮して参ります。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	<div></div>		避難訓練等に地域の協力を得るため、近隣の方の参加を呼び掛けている。	通所を公にしたいくない保護者様もおられるため、保護者様のご意向をうかがいながら、今後野外活動やイベント等にも近隣の方々にもご参加頂けるよう検討して参ります。
非常時の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	<div></div>		保護者様には送迎時などにご覧頂けるよう入り口付近に常にマニュアルを一覧にして掲示しています。 保護者様には契約の際等にもご案内を行い、職員には定期的に研修・職員会議等にて周知しています。	各種マニュアルをご覧頂けるように保護者様へも継続してお知らせして参ります。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	<div></div>		本年度も地震と火事を想定した避難訓練を行いました。 また、その様子はブログ等を通じて、保護者様にもお知らせしています。	今後も定期的に児童も参加して避難訓練を行って参ります。 また消防署にて行われる救命講習も受講し、非常時に命を守る行動が迅速に行えるよう訓練を続けて参ります。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	<div></div>		外部の虐待防止の研修にも必ず参加し、参加した職員が事業所内研修で周知を行っています。 それを基に、定期的に職員会議・研修を繰り返し行い、積極的に意見交換を行い、周知徹底し、虐待防止に努めています。	今後も虐待防止への研修や討議は続け、研鑽に努めて参ります。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	<div></div>		利用契約書に身体拘束の禁止を記載しており、生命又は身体を保護するためやむを得ず身体拘束を行う場合はあらかじめ文書により保護者様の同意を得ることにております。	今後も原則として身体拘束は行わない基本姿勢を守りながら、緊急時（部屋からの飛び出し、自傷行為、他者へ危害を加える可能性がある場合など）児童の命に関わる事象が起きた場合に限り、止むを得ず抱いた状態で移動させる、待ちが待たない等を保護者様に十分に説明を行い、同意を得て、個別支援計画に記載しています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	<div></div>		当事業所では水分補給の飲み物（麦茶・水）以外の食物は提供していませんが、通所開始前に保護者様から十分に聞き取り・情報共有に努め、アセスメントシートに詳しく記載を依頼し、職員間で情報共有を徹底し、配慮しています。	事業所で食物の提供を行う予定はありませんが、今後更細心の注意を払い対応して参ります。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	<div></div>		ヒヤリハットが発生した時は詳細に文章化し、職員間で事例共有に努めています。 また全職員が閲覧しやすい場所に置き、都度確認と共有を行っています。	今後も少しでもヒヤリとした場合は報告書を作り、事故防止のため都度振り返るよう心掛けて参ります。

〇この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。